
氷と眠と幻想郷と。

あるぱか

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

氷と眠と幻想郷と。

【Nコード】

N0901Z

【作者名】

あるぱか

【あらすじ】

気がついたら周りが火の海。叫んで息吸ったら煙も吸ってしまった。パタリと倒れた。そしてまた気づいたら森だった。みたいな？大昔でちまちま頑張る動物の話。

この作品には駄文、キャラ崩壊、厨二病、その他諸々含まれています。

てめえなんか大嫌いだぜ！という方は即シャットダウン、別にいいんじゃない？という方はお読み下さい。

1話 炎に包まれて。

「おおおおおおおおおおお——

目を開けると、そこは火の海でした。おしまい

…「じゃなくてええええええええええ！　なんでおわってんだよおおお
おおお！」

ぜえ…ぜえ……すううう…！！…げほおっげほ……！
盛大に煙吸ってしまった。

ばたっ

「げむり…ずったらいけ、ね…」

自分はばたりと倒れ、火は自分を包みこもつとどんどんこちらに近づいてくる。

「あ、あ…　死ぬ、のか…」

まだ読んでない小説あるのになー。 と、関係無いことを考えて、暑さを感じず、ゆっくり目を閉じ、そのまま意識がなくなつた。

そしてまた目を開け…って、え？

「あれ？ 自分生きて…ん？」

何故か目線が低いです。そして周りは自然がいっぱい。

…これが幻想入りなのか！？

でもそんなことより、自分の体を確認。

チクチクした背中。

小さい手足…… じゃなく前足後ろ足

少し突き出た鼻。

完璧に人間じゃないです。本当にありがとうございました。

まだ顔は確認できていないし、そこら辺に水たまりがないかときよろきよろ。

15分後くらい

「おお… 念願の水たm… 湖を手に入れたぞ…！」

ちまちま歩いてやつと着いたは湖。

森はまだ続いてます。

途中で「自分ハリネズミなんじゃね？」

と思ったが、まさかそれはないだろうH A H A H A

と現実逃避

をして、
ひょいっと湖をぬぞきこむと、

「わああ、完璧にハリネズミだね。」

銀色の背中に針だらけ。

くりくりした丸い目。

小さくて先が丸い耳。

ん？ハリネズミって銀色ってあるのか？

そういえば叫びたいことがあるんだ。

正直に言つと…

「可愛いです！」

森の中に声が響き渡りました。（多分）

つと…あ、そういえば鳴き声は？ と聞かれれば、答えてあげよう（ry

んまあ、読者には日本語に聞こえてるかもだけど、

…あれ？ 読者って誰だ？

……。

ま、まあいい、キィーキィー言ってます。

気になってたんだよね。

そういえば、ここに着く前にちらほら妖怪っぽいのがいっぱいいたんだ。

自分が小さかったから良かったんだ。

ほら、よくあるだろ？途中にいた動物が襲われて……

細かく言くと、角で腹を突かれてました。

おお、こわいこわい。

てか幻想郷じゃね？ ここ。妖怪っぽいものいるし。

確かに逝きたいとはいったことあるけど、すぐ死ぬじゃん！

そもそもハリネズミの寿命1〜5年くらいじゃん！

ああ……せめて能力があれば生き残れると思うのに。

とか考えながら、とりあえず水を飲もうと口を湖に近づけ……

…凍ってる。何故に。

何回やっても凍る。

もう水は諦め、そろそろ暗くなってきた空を見て、

「寝床は…木に穴作れるかな？」

とぼつりという。

木をかじって穴を開け、そこら辺にある落ち葉を集め、穴に置く。
寝床の完成。

穴は自分となにか物が置けるくらいの大きさ。

落ち葉にぽすりとダイブする。

落ち葉ってこんなに暖かいんだ。すぐ寝れる。

「お腹すいた。…明日にはおいしい物が食べれるだろう。」
そう信じる。

夢だと思いたい。

まだ希望はある。

眼を閉じて、言う。

「おやすみなさい。」

『触れたものを凍らせる程度の能力』

1話 炎に包まれて。（後書き）

初めまして、あるばかと申します。

この小説を読む人がいるのかとドキドキしてます。

超 初心者なのでアドバイスや感想をくれると飛び跳ねて喜びます。
この作品は、幻想郷ができて何年かしたら他の原作とクロスしたい
と思います。

今後よろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0901z/>

氷と眠と幻想郷と。

2011年12月3日13時52分発行